

期トレンドがあるか」ということであった。モデル研究の立場から、Shukla 博士は、人間活動による地表面被覆の変化の大気に対する影響がこの地域だけに増幅されるメカニズムがあるのではないかと述べた。一方、Palmer 博士はたとえ地表面被覆の変化がなくても、海水面温度の長期変動があれば、その影響を増幅するフィードバックメカニズムがサヘルのような半乾燥地域にあるのではないかとコメントした。それに関連して、私は、インド洋の海水面温度の上昇傾向がサヘル

の降水減少にとって重要であろうと指摘した。最後は座長である Hastenrath 教授のまとめにはいったが、サヘル

の降水減少にとって重要であろうと指摘した。最後は座長である Hastenrath 教授のまとめにはいったが、サヘルの長期干ばつは、大西洋の海水面温度が重要で、そこで観察される風の収束帯の南下傾向によるものと自説を述べた。しかし、サヘル

の降水減少にとって重要であろうと指摘した。最後は座長である Hastenrath 教授のまとめにはいったが、サヘルの長期干ばつは、大西洋の海水面温度が重要で、そこで観察される風の収束帯の南下傾向によるものと自説を述べた。しかし、サヘルの降水傾向に対して、どこの海水面温度が重要なのか、また、海水面温度と地表面被覆の変化のどちらの影響が大きいか、突っ込んだ議論はされなかった。この問題は、ここ何十年来、決着をみていないのが現状のようだ。今後、この分野の研究は、こうした両要因のサヘル干ばつにおける役割をある程度、定量的に評価していく段階に入ってゆくものと考えられる。そのためにも、従来の海水面温度データの解析を精緻化していくとともに、近年、蓄積されてきた衛星データを利用して、広域的な地表面被覆の経年変化を解析していかなければならないだろう。同時に、こうした観測事実を基にして、現実的な地球表面の境界条件を考慮した数値モデル研究も進めていく必要がある。(篠田雅人)

1995年度日本気象学会春季大会予稿集の落丁について

日本気象学会事務局

記

既に発送した予稿集の一部に業者の不手際で落丁がありました。お詫び申し上げます。

お手許の予稿集を点検して頂き、交換の必要がある場合は下記に葉書または FAX でご連絡下さい。

新しく印刷した予稿集を送料など業者の負担でお送りします。お手許の予稿集は返送の必要はありません。

連絡先 〒113 東京都文京区湯島 3-20-12

第二ツナシマビル

日本印刷株式会社 佐藤 行義

FAX 03-3833-3883